

子ども・子育て支援対策調査特別委員会 報告資料

令和3年8月20日

報告事項件名	頁
1 若年者支援協議会（仮称）の設置について	2

（ 政策経営部 ）

子ども・子育て支援対策調査特別委員会報告事項

令和3年8月20日

件名	若年者支援協議会（仮称）の設置について																
所管部課名	あだち未来支援室 子どもの貧困対策・若年者支援課																
内 容	<p>「未来へつなぐ あだちプロジェクト 第2期子どもの貧困対策実施計画」では、新たに取組むべき項目として「若年者（特に中学校卒業後）支援体制の構築」を掲げ、検討を進めている。今般、若年者支援を推し進める組織の立ち上げを準備しているので報告する。</p> <p>1 若年者支援の検討状況</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="438 795 566 884">課題1</td> <td data-bbox="566 795 1485 884">学力不足や発達障がいなど課題を抱えて高校等に進学し、高校1年の夏休み明けに中途退学のピークを迎える。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="438 884 1485 1131"> <p>ア 進路指導の充実によりミスマッチを減らし、また、進学先の情報提供を徹底し、生徒・保護者が進学先の検討が十分に行えるようにする。</p> <p>イ 東京都ユースソーシャルワーカー（YSW）と足立区スクールソーシャルワーカー（SSW）間の情報交換をこれまで以上に密接に行うことで、中途退学予防に取り組む。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="438 1131 566 1220">課題2</td> <td data-bbox="566 1131 1485 1220">高校を中途退学した生徒の情報は、個人情報に当たるため区では把握できず、中途退学後の支援が困難である。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="438 1220 1485 1467"> <p>ア 進学先でのきめ細かな指導に生かせるよう区立中学校と区内都立高校間で課題のある生徒の個人情報を文書でやり取りできるようにし、中途退学予防や退学後の適切な支援に結びつける。</p> <p>イ 高校等中途退学者の情報を区が入手し、支援に繋げる仕組みの導入を目指す。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="438 1467 566 1556">課題3</td> <td data-bbox="566 1467 1485 1556">中途退学後も「学び直したい」「働きたい」と考えている生徒に対して、必要な支援が提供できていない。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="438 1556 1485 1780"> <p>ア NPO団体等の協力を得て、小中学校の教育内容の学び直しや高校卒業程度認定試験合格や大学への進学を支援する。</p> <p>イ 企業等に協力を得て、働くことを体験する機会を提供し、自分に合った職業選択や就職に結びつける。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="438 1780 566 1870">課題4</td> <td data-bbox="566 1780 1485 1870">区として中卒者・高校中途退学者を支える機関がない。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="438 1870 1485 2027"> <p>ア 相談から個別支援の決定までを一貫して実施する支援組織を構築する。</p> <p>イ NPO団体等と連携し、SNSを活用した相談体制を確保する。</p> </td> </tr> </table>	課題1	学力不足や発達障がいなど課題を抱えて高校等に進学し、高校1年の夏休み明けに中途退学のピークを迎える。	<p>ア 進路指導の充実によりミスマッチを減らし、また、進学先の情報提供を徹底し、生徒・保護者が進学先の検討が十分に行えるようにする。</p> <p>イ 東京都ユースソーシャルワーカー（YSW）と足立区スクールソーシャルワーカー（SSW）間の情報交換をこれまで以上に密接に行うことで、中途退学予防に取り組む。</p>		課題2	高校を中途退学した生徒の情報は、個人情報に当たるため区では把握できず、中途退学後の支援が困難である。	<p>ア 進学先でのきめ細かな指導に生かせるよう区立中学校と区内都立高校間で課題のある生徒の個人情報を文書でやり取りできるようにし、中途退学予防や退学後の適切な支援に結びつける。</p> <p>イ 高校等中途退学者の情報を区が入手し、支援に繋げる仕組みの導入を目指す。</p>		課題3	中途退学後も「学び直したい」「働きたい」と考えている生徒に対して、必要な支援が提供できていない。	<p>ア NPO団体等の協力を得て、小中学校の教育内容の学び直しや高校卒業程度認定試験合格や大学への進学を支援する。</p> <p>イ 企業等に協力を得て、働くことを体験する機会を提供し、自分に合った職業選択や就職に結びつける。</p>		課題4	区として中卒者・高校中途退学者を支える機関がない。	<p>ア 相談から個別支援の決定までを一貫して実施する支援組織を構築する。</p> <p>イ NPO団体等と連携し、SNSを活用した相談体制を確保する。</p>	
課題1	学力不足や発達障がいなど課題を抱えて高校等に進学し、高校1年の夏休み明けに中途退学のピークを迎える。																
<p>ア 進路指導の充実によりミスマッチを減らし、また、進学先の情報提供を徹底し、生徒・保護者が進学先の検討が十分に行えるようにする。</p> <p>イ 東京都ユースソーシャルワーカー（YSW）と足立区スクールソーシャルワーカー（SSW）間の情報交換をこれまで以上に密接に行うことで、中途退学予防に取り組む。</p>																	
課題2	高校を中途退学した生徒の情報は、個人情報に当たるため区では把握できず、中途退学後の支援が困難である。																
<p>ア 進学先でのきめ細かな指導に生かせるよう区立中学校と区内都立高校間で課題のある生徒の個人情報を文書でやり取りできるようにし、中途退学予防や退学後の適切な支援に結びつける。</p> <p>イ 高校等中途退学者の情報を区が入手し、支援に繋げる仕組みの導入を目指す。</p>																	
課題3	中途退学後も「学び直したい」「働きたい」と考えている生徒に対して、必要な支援が提供できていない。																
<p>ア NPO団体等の協力を得て、小中学校の教育内容の学び直しや高校卒業程度認定試験合格や大学への進学を支援する。</p> <p>イ 企業等に協力を得て、働くことを体験する機会を提供し、自分に合った職業選択や就職に結びつける。</p>																	
課題4	区として中卒者・高校中途退学者を支える機関がない。																
<p>ア 相談から個別支援の決定までを一貫して実施する支援組織を構築する。</p> <p>イ NPO団体等と連携し、SNSを活用した相談体制を確保する。</p>																	

2 若年者支援協議会（仮称）の設置

個人情報 のやり取りを可能にし、かつ、1で示した対応策を実施し、支援が必要な若者に対して適切な支援に繋げることを目的に、子ども・若者育成支援推進法第19条第1項の規定に基づく若年者支援協議会を設置する。

同協議会には、実務者会議（課題のある生徒に関する情報共有、個別ケースの進捗管理・評価、支援体制の見直しを行う）を設置し、その下に個別ケース検討会議（課題を抱えた若者に対して、具体的な支援を検討・決定する）を配置する。

なお、本協議会で対象とする若者は、原則として中学校卒業後から25歳頃までとすることを検討している。

3 若年者支援協議会の構成

(1) 全体会

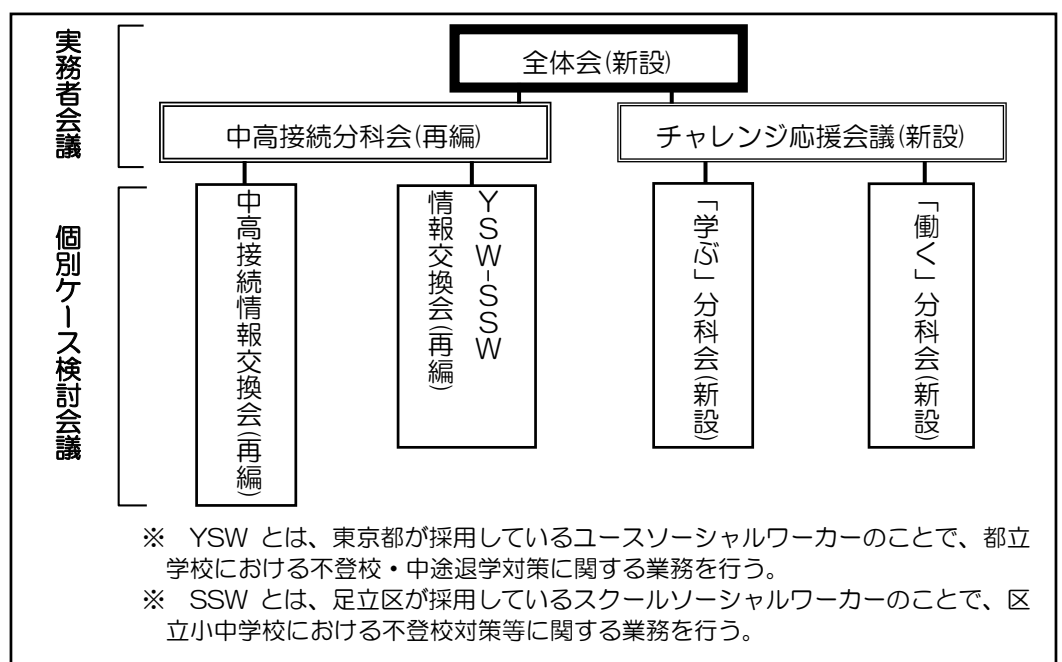
支援体制全体の見直しや実務者会議の進行管理と評価を行う。構成員は、区長、東京都教育委員会、区教育委員会等とする。

(2) 中高接続分科会

既存の「高校中途退学に関わる中学校・高等学校連絡協議会」「東京都YSWと足立区SSW連絡会」を再編し、個人情報を基にきめ細やかな支援に繋げる仕組みを導入する。構成員は、区内都立高校及び中学校校長、庁内関係所管部課長とする。

(3) チャレンジ応援会議

支援が必要な中卒者・高校中途退学者に対して、相談から個別支援の決定までを一貫して実施し、自立を支援する。構成員は、東京都YSWと足立区SSWのほか、NPO団体等とする。



問 題 点 今後の方針	令和3年10月の設置に向け、準備を進める。
----------------	-----------------------